

開設イベント 不登校の『その先』 **きみの笑顔が見たい**

夏模様の4月22日(日)、緑ゆたかな鎌倉でNPO法人梶原あそび基地：代表水澤麻美さん等のLargo(ラルゴ)フリースクール、会員涌井貴暁さんもスタッフで活躍中)の開設イベントが実施されました。



嘆き悲しむ不登校のその先を分かち合い、子どもの未来に期待する行動的な大人たちの集いが実現。子どもを含め173人が参加、大盛況でした。研究所が共催し、始動した鎌倉応援団も25人が参加しました。

横須賀応援団会議の川辺悟史さん(医学生、不登校経験者)は「中邑賢龍先生のお話をはじめ、小林大真君(鎌倉在住、ROCKET スカラー・高校1年生)の経験談、第2部の滝田さんと松尾崇市長と中邑先生の鼎談どれも自分達がこれから考えるべきこととして、また自分の経験してきたことを再度考える良い材料となりました。」と感想を寄せてくださいました。今号は第1部中邑賢龍先生の講演概要の報告です。体験談と第2部対談等は次号へ続きます。(文責:滝田衛)

中邑賢龍さん v.s. 不登校 & ROCKET in 建長寺

面倒くさい不登校の子どもたちを、大人が面倒くさいと思うようになりました。安定する日本は効率をもとめ、安心安全で停滞を迎えています。基準に合わない動かない子や人を排除する社会になり、自分でやることを面倒になりやらない子が増えました。子どもたちの競争力を失わせています。日本の教育システムは悪くない。しかし合わない子どもに対して選択肢がなさすぎる、大きな問題です。不登校が一つの選択肢ですが、非常にネガティブにとらえる人が多いのが現実です。

建長寺にて by 川辺悟史さん



ユニークな人は放っておく

僕は子どもの頃非常に変わった子で友達が欲しいとは思わなかった。趣味は



昆虫採集、中3まで顕微鏡で観察する「変態」です(笑い)。親は何にも言わず、勉強すると馬鹿になるとも言った。何にも言われなかったことが僕にとって良かったし、社会的圧力がなかった時代でした。だから僕は学校へ行かない子どもたちの覚悟を受け、主体的に学んでいけばいいと思っています。ユニークな人は放っておき勝手にやればいい。好きなこ

とをやる人に頑張ったという人はいません、面白いだけなのです。今の教育は管理、プログラムがしっかりしています。そこからイノベーション(innovation 社会的変革)は生まれません。学校には時間割があり集中すると時間がかかり中途半端で終われず、個性的な子は馴染めません。学校はカリキュラムを変えられないので、中途半端な状態です。親も子どももイライラするのが現状です。

パンツを自分で洗うリアリティーを

社会は協調性、オールマイティーな人を求めます。トップ校を出て人柄のいい挨拶できる人を求めます。しかしAI (artificial intelligence 人工知能)時代に向け能力と教育・福祉をとらえなおす必要が出てきました。与えられ高速で処理する仕事はAIが代わります。多くの人ができることは機械に移行した方が、みんな楽になります。標準的な人間に近づける意味がない時代が来ています。親は「不登校になると受験、就職をどうする」といいますが、諦めた方がいい。自分で仕事を創って稼げばいい。ホリエモン(堀江貴文さん)がROCKET トップランナートークに来て「好きなことは今すぐやれ。俺は佐賀にいてやりたいことが出来なかった。今はインターネットがあって時間も場所も関係ない」といいました。ROCKETでは「やりたいことは自分でやれ、稼げ、人に頭を下げて頼め」と徹底して教えています。申請書を書いて認められたら何でも買えるのがROCKET、自分で売り込むのです。この面倒くささは大事。親が先回りする時代、子どもは手伝いもやらない時代。頭でっかちな子どもたちには「自分のパンツは自分で洗う」(中邑流比喻?)リアリティーを求めます。

学習の機会がたいせつ 不登校は宝石！



私は「この社会を救うのは不登校の子かもしれない」と本気で思っています。不登校の子どもに宝石が潜んでいる、宝石になる可能性を感じています。全員にはありません、学校へ戻っていく子もいるので。不登校の特権を生かし新しい学びができるかもしれないと。学校へ行くか行かないかではなく、学習機会があるかが重要です。僕は国の不登校検討会議の委員ですが、年間10日間のお休み券を子どもたちに配ることを会議で提案し、全く浮いています(笑)。折れる前に休む、アカデミックリゾートをつくりお休み券を使って出かける、JRもタダだといいですね。鎌倉でも「寺好きの子集まれ」の祭典ができれば…。でも10日も休んだら勉強の遅れを心配する人もいます…。これってやばいですね。学びたいから色々な所へ出かけていく、本当の意味でのアクティブラーニングです。館林で粉好き、阿蘇の牧草好きイベントを考えています。学区を超え、学校へ行っている子も含めて考えていかないと、この国は救えない。教育のシステムを変えて行きませんか！

何か面白いことが起こる…？

子どもたちは書くのが苦手遅く字が汚い、不登校の子に一致している場合があります。でも効率的にタブレット



を使う、人と違うことをやると社会的圧力がかかります。幸い不登校が増え、僕はヤッターと思っています(笑)。親御さんは「うちの子は好きなことがないんです」と。好きなことが分かるようにしてあげていないからです。例えばレゴが好きで遅くまでやっている子に、明日は学校「もう寝なさい」と。僕だったら先に寝ちゃう、放っておきます。10分ぐらいしたらやめるものです。世の中のシステムががちりして、放っておいてくださいと言えなくなりました。ROCKETプロジェクトは一人で鹿児島から来いと言います。親は非常識だ!と、そう僕らは非常識です(笑)。最初は羽田へ、次は浜松町まで迎えに行きます。一人でホテルを予約し海外へも行っちゃいます。泣く子がいますが僕は慰めません、来なくていいと伝えます。大事なことはオジサンやオバサンに着いて行ったら、面白いことが起こると子どもが思うことです。

一斉授業はしんどい 13万5千人の不登校



僕は発達障害の子どもを早期に診断してソーシャルスキルトレーニングをする? そうではなく発達障害の人たちがいるから面白い、世の中は活性化していくと思います。修正ではなく生かしていくこと。子どもたちはスマホ一つあれば読み書き計算コミュニケーションは出来ます。知識の伝達は学校の先生が話してやるべきではなく、池上彰先生のUチューブを見た方がいい効率化の時代です。学校の先生は何をするのか? これを考える時代が来ています。書けない子、集団に入れない子、自分の興味関心だけしかしない子、落ちつきのない子、コミュニケーションができずこだわりの高い子、融通が利かない子、通常級の一斉指導では相当しんどいです。だから13万5千人の子どもたちが不登校になっている。実際は仮面不登校(中邑説)、今の学びに馴染んでいない子が相当数います。空気を読み協調性のある子からイノベーションは生まれないので、多様な学びが必要です。そしてたくさんのお仕事をちょこちょこ出来ることが大事で、公立学校の先生方も週4日勤務にしたらいいと思います。好きなことができる先生の授業が良いと思います。先生たちも多様化していく時代です。

批判ではなく 勝手にやりたいことをやる

異才発掘プロジェクト: ROCKET (Room Of Children with Kokorozashi:志 and Extraordinary:非日常的 Talents:才能)は子どもたちが集まる場、日本財団との共同プロジェクトです。教科書・時間制限なし、好きなことを認める、自己責任、挑発、教えず見守る、見捨てない場所です。時間をかけ試行錯誤する体験、不登校の特権を生かして。子どもにリアリティーがなく、ネットで調べる頭でっかちな子どもがいます。知識はどうでもいい、生き方を教えたいのです。ネット依存、ゲーム中毒で親は困りますが、必然です。子どもがぐずるとスマホや携帯を与え「Uチューブ見ていなさい」、おとなしくやっているとはめられる。でもある時親は叱り取り上げる、奪われた



子は大暴れする。世の中を考えると親御さんを責められませんが…。学校では点数取れなくても、ゲームでは得点でき評価されます。不登校の子はやることなくゲームをやり続けます。ゲームを超える面白いこと、テクノロジーを使ってどんどん面白いことを教えればいいのです。僕は学習指導要領を批判するのではなく、勝手にとりあえずやってみよう！学びを。家出バス・子どもホテルをやりたい。親子が互いにクールダウンするために。ほめる教育ではない、凄い大人に会うことが大切です。親子では難しいので、このLargoを含め大人との出会いができると思いいます。全国の子どもに年間10枚のお休み券配布し教育委員会公認のロケットアカデミーへ平日行く！Largoでも実現すると、この国は変わっていくでしょう。6月にはROCKET 募集開始が始まります。一緒に活動する中で審査することを考えています。ぜひ応募してください。 完

(※講演ではキノコ博士ヒカル君、マンホールに関心ある子、六本木ヒルズを測る、三越本店を体験、トンビ生態系の観察、アクリルを磨く、帯広や三陸沖の作業等プロジェクトでの子どものエピソードが、小林大真さんとの会話を挟んで。)

コラム風

○販売コーナーで娘にボソッとやっと伝えました。「本当に色々な人がいるね。お母さんは10代のあなたに寄り添えなくてゴメンね、だから理解しようと勉強もしたし、お母さんがお節介ばばあだってこと百も承知でしょ。だからって訳じゃないけど、こんなお母さんでも誰かのサポートに今からでもなれたらと思ってやれることはやろうと思ってる」と。…中略…GWは家族で旅行に行く予定に一緒に行くといい出し、久しぶり一緒の旅行です。成人していても、親にとってはいつまでも女の子なので心配はつきません。休んでいい10日間などの話を聞き、ならば学校で辞めて欲しいもののひとつ皆勤賞が浮かびました。無遅刻無欠席は立派なことです。(会員S.T.さん)



○4月8日横須賀応援団会議・マジスティック&リトルエジソンは15人、車いすのM.Hさん、そしてHさん親子が親子の信頼とは何か！を提起してくれました。22日の鎌倉応援団会議はLargoイベントの通りです。そして29日の逗子応援団会議は17人、地元逗子市に定着し平塚・東京・横須賀からも参加いただきました。当事者体験談の共有を確認、併せてアートセラピー実施でした。



5月予定

- 6日(日)午後2時～ 横須賀応援団会議・マジスティック&リトルエジソン:横須賀市民サポート活動センター
 - 12日(土)Largo 女子会(?)
 - 13日(日)午後2時～ 鎌倉応援団会議・Largo『らるごでらくご』立川談修&小林凜々花(中1生)500円。
 - 19日(土)午前10時～講演会:西鎌倉地区懇話会 in Largo
 - 27日(日)午後1時～逗子応援団会議・ひきこもり当事者プロジェクト:逗子市民交流センター
 - ◎Largo: 8日(火)、22日(火)
 - ◎鎌倉市相談センター1日(火)、7日(月)、9日(水)、11日(金)、18日(水)深沢小、25日(金)、29日(火)大船小、30日(水)富士塚小
 - ◎相談8日(火)、16日(水)、23日(水)、28日(月)
- 【発行編集:滝田衛】 携帯:09072124055 メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
- 研究所ホームページ: <http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>
 - 応援団フェイスブック: <https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>